

環境経営

# 環境活動

## 基本的な考え方

当社は、日本の潤沢な資源であり、地球温暖化対策において重要な役割を担う木材の取り扱いを強化し、建築物の木造化・木質化の推進など、積極的な利活用の促進を図るとともに、良質な住宅の供給等を通じて環境問題の解決に取り組むこととしています。こうした考えのもと、2024年4月に「環境方針」を策定しました。同方針に基づき、企業活動を通じた脱炭素社会の実現に貢献していきます。

## 環境方針と主要な活動

環境方針の詳細は当社HPをご参照ください  
[https://www.nice.co.jp/assets/images/environmental\\_policy.pdf](https://www.nice.co.jp/assets/images/environmental_policy.pdf)



### 環境方針の概要

項目	詳細	関連するマテリアリティ (P28 参照)
適切な森林管理と資源の循環利用の促進	木材の流通をルーツとする企業として、森林の適切な管理と資源の循環利用の促進により、エコマテリアルである木材の利活用の推進に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国産材の利用拡大によるサステナブル・リカバリーの推進</li> <li>● 木を生かしたレジリエンスな住まいづくりの推進</li> </ul>
環境負荷の最小化	脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガスの削減や、生物多様性の保全、資源の有効活用及び廃棄物の削減など、企業活動における環境負荷の最小化に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資源の有効活用に配慮した既存住宅流通の促進</li> <li>● 事業活動における環境負荷の低減</li> </ul>
環境に配慮した商品やサービスの推進	環境負荷低減に資する商品やサービスの開発・調達・提供に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境配慮型商品やサービスの提供によるエネルギー消費量の削減</li> <li>● 木を生かしたレジリエンスな住まいづくりの推進</li> </ul>

### 適切に管理された森林からの木材の調達

森林認証材をはじめとした適切に管理された森林からの木材製品の調達・流通を積極的に推進しています。ナイス株式会社をはじめ、製材事業を行うウッドファースト株式会社及び建設事業者であるナイスユニテック株式会社等がクリーンウッド法の事業者として登録されているほか、国内外の木材流通拠点、工場において森林認証制度に基づくCoC(管理の連鎖)認証を取得するなど、森林資源の循環利用に貢献しています。

### 国産木材の積極的な利活用を促進

森林育成から素材流通、製材、加工、製品流通、設計、施工、住宅供給など、建築物の木造化・木質化のサプライチェーンにおけるネットワークを生かし、建築物等への国産木材の積極的な利活用を推進しています。

### 住宅を長く使うことによる環境負荷の低減

既存住宅ストックの循環的な利用が資源の有効活用につながり、環境負荷の低減につながると考え、既存住宅流通やリフォーム・リノベーションを推進するとともに、住まう方が快適に過ごせるよう、適切な維持・管理に貢献しています。

### 消費電力の再生可能エネルギー化を促進

事業活動における環境負荷を低減するべく、拠点への実質

再生可能エネルギー由来電力の導入を進めています。2024年8月末時点で32拠点に導入、使用電力の再生可能エネルギー比率は約33%と、前期の約19%から約14ポイント上昇しました。(当社の温室効果ガス排出量の詳細は、50ページを参照)

### 高性能住宅の普及によるエネルギー消費量の削減

家庭部門の温室効果ガス排出量の削減に向けては、住宅・建築物の環境性能を高め、居住後のエネルギー使用量を削減することが重要です。当社グループでは、ZEHに不可欠な建材・住宅設備機器等のトータル提案と「ナイスサポートシステム」を通じた家づくりのサポートにより、高性能住宅の普及促進に努めています。

### 省エネ・健康・快適な住まいの供給

住まいの断熱性能を高め、快適かつ消費エネルギー量が抑えられる暮らしを提供するべく、当社が供給する一戸建住宅は、ZEH水準の断熱性能としています。また、2024年3月期には、構造部に使用する木材を全て国産材とすることで、より環境性能を高めています。

マンションについては、断熱性能の向上と効率的な設備等の導入により、2026年3月期に供給する物件から、ZEH-M Orientedを導入していきます。

## 社有林「ナイスの森®」で水源のかん養、生物多様性の保全にも貢献

木材流通をルーツとする企業として、利益の一部を山林取得に充て、社有林の保全・育成を通じて地球環境保護に貢献していきたいとの考えから、1980年から社有林「ナイスの森®」の取得を開始しました。現在、総面積は2,032.2ヘクタールに及び、2024年3月期にはCO<sub>2</sub>を10,071t-CO<sub>2</sub>吸収しているほか、土砂災害の防止、水源のかん養、生物多様性の保全等にも貢献しています。



整備面積 (伐採・間伐): **24.8** ha CO<sub>2</sub> 吸収量: **10,071** t-CO<sub>2</sub>

名称	取得年	面積 (ha)	CO <sub>2</sub> 吸収量 (t-CO <sub>2</sub> )
熊野の森	1980年	140.5	594
丹沢の森	1990年	12.2	81
川根の森	2001年	102.7	761
猪苗代の森	2007年	212.0	536
徳島の森	2008年	829.6	4,974
岐阜の森	2012年	654.3	2,806
京都北山の森	2012年	50.0	112
津久井の森	2015年	30.9	202
合計		2032.2	10,071

(注) CO<sub>2</sub> 吸収量は、小数点以下を切り捨てているため、合計値は一致しません。

## TOPIC 地域貢献活動

### 海岸防災林の再生

東日本大震災の津波被害に遭った海岸防災林を再生させるための活動を行っています。海岸防災林は、潮害の防備、飛砂・風害の防備等の災害防止機能を有しており、農地や居住地を災害から守るなど地域の生活環境の保全に重要な役割を果たしています。

東日本大震災により流失した海岸防災林の地に、新たなマツが立派に育ち、災害から地域を守ってくれることを願い、樹の成長を見守りながら、地域の皆様と一緒に刈り払い活動を行っています。



### 「ナイス小豆島オリーブの森」におけるオリーブ栽培

香川県小豆島において、約500本のオリーブの樹を保有する「ナイス小豆島オリーブの森」を運営しています。社会福祉法人ひまわり福祉会のひまわりの家に一部作業を委託し、収穫や搾油等をお願いすることで、就労機会を提供するとともに、地元の方々に管理・作業していただいています。

毎年秋には、地元の皆様とともに全て手摘みで収穫作業を実施し、「ナイス小豆島オリーブの森」から獲れたオリーブの実を使用したエクストラ・バージンオリーブオイルや塩漬けを製造しています。



# TCFD 提言への対応



当社のTCFD提言への対応の詳細についてはHPをご参照ください  
<https://www.nice.co.jp/sustainability/tcfd/>



## 戦略

当社グループにおいて主要な売上高を占める、ナイス株式会社の建材・住宅設備機器の流通、木材流通、住宅の3分野における2030年の気候変動の影響について、シナリオ分析を実施しています。2℃未満シナリオについては、本格的な炭素税の導入やエネルギー価格の上昇が主なリスクになる一方、高性能建材・設備機器の需要や木材の需要の増加など、リスクを上回る事業拡大の機会が発生することを見込んでいます。

### 参照したシナリオと世界観

シナリオ	シナリオの概要	参照データ
2℃未満シナリオ	<b>2050年にカーボンニュートラルを達成するシナリオ</b> ●炭素税の導入や再生可能エネルギーの主力電源化など、脱炭素社会の実現に向けた施策が積極的に進められる。 ●住宅において省エネ性能における法令上の要求水準が強化され、ZEH水準への適格が義務化されるなど、ZEH化が促進される。 ●住宅・建築物の木造化・木質化が促進され、木材(国産木材)利用が拡大する。	SSP1-1.9 SSP1-2.6 RCP2.6 WEO2022 STEPS(公表政策シナリオ) 第6次エネルギー基本計画 森林・林業基本計画 ほか
4℃シナリオ	<b>化石燃料主体のまま成り行きで進むシナリオ</b> ●異常気象の発生確率が増大し、気象災害が増加する。 ●夏季の気温上昇などにより、長期的に労働生産性が低下、また、空調費等が増加する。	SSP5-8.5 RCP8.5 The Future of Cooling Working on a warmer planet 気候変動を踏まえた治水計画 のあり方提言 ほか

### ナイス株式会社の3分野における主要な気候変動リスク及び機会

大分類	分類	項目	顕在化時期	事業への関連度合い			影響度
				建材 住設	木材	住宅	
移行リスク (2℃未満シナリオ)	政策・法規制	炭素税の導入	長	●	●	●	5
	市場	エネルギー価格の動向	短～中	●	●	●	4
	政策・法規制 市場	森林保護政策の強化と消費者の嗜好変化	長	—	●	▲	5
物理リスク (4℃シナリオ)	急性	自然災害の激甚化によるサプライチェーン分断リスク	短	●	●	▲	5
	慢性	気温上昇による生産性の低下と空調費等のコスト増加	中～長	●	●	●	3
	慢性	気温上昇による森林生態系への影響	長	—	●	▲	5
機会 (2℃未満シナリオ)	資源の効率性	ZEH普及に伴う省エネ・創エネ建材・設備の需要増加	中～長	●	—	●	5
	製品・サービス	木材需要の増加	短～中	●	●	●	5
	市場	良質な住宅の増加による既存住宅流通市場の活性化	中～長	—	—	●	3

(注) 顕在化時期は短(2025年まで)・中(2026年から2030年まで)・長(2031年以降)の3段階、事業への関連度合いは●(大いに関連がある)、▲(関連がある)、—(あまり関連がない)の3段階、影響度は財務へのインパクトの大きさを鑑みた1～5の5段階で評価しています。

## 指標と目標

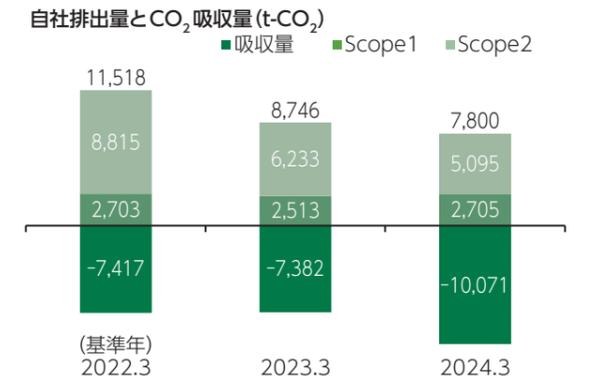
当社は2023年5月、「ナイスグループ環境目標」(23ページ参照)を策定し、取引先様やお客様をはじめとするステークホルダーの皆様との連携によって、バリューチェーン全体での温室効果ガスの排出量について、2050年までに実質ゼロとすることを掲げました。その足掛かりとして、自社の温室効果ガス排出量を削減するとともに、社有林のCO<sub>2</sub>吸収量を増加させることで、2026年にカーボンニュートラルを達成することを目標としています。

### 2026年目標 自社のカーボンニュートラルの早期達成

2024年3月期の自社排出量(Scope1・2)は、拠点で使用する電力について実質再生可能エネルギーへの切り替えを進めたことなどにより、7,800t-CO<sub>2</sub>(2022年3月期比32%削減)となりました。

加えて、社有林「ナイスの森®」のCO<sub>2</sub>吸収量が10,071t-CO<sub>2</sub>となったことで、吸収量が排出量を上回り、早期にカーボンニュートラルを達成しました。

Scope1・2削減率\*: **32%** 再生可能エネルギー導入率: **33%**  
 \*2022年3月期を基準とした削減率



### 2030年目標 サプライチェーン排出量と削減貢献量の創出

2024年3月期のScope3は、36万8,530t-CO<sub>2</sub>となりました。また、当社は国産材の利用による炭素貯蔵量や、太陽光発電といった再生可能エネルギー由来電力の提供量等、事業活動等によって社会全体で削減された温室効果ガスの排出量を「削減貢献量」と定義しています。引き続き、温室効果ガス排出量の削減に努めるとともに、事業活動を通じた脱炭素社会の実現に貢献していきます。

### 2024年3月期のScope3

Scope3 合計	368,530	(t-CO <sub>2</sub> )
カテゴリ① 購入した製品・サービス	214,755	カテゴリ⑦ 雇用者の通勤 479
カテゴリ② 資本財	10,912	カテゴリ⑩ 販売した製品の加工 5,114
カテゴリ④ 輸送・配送	86,625	カテゴリ⑪ 販売した製品の使用 48,929
カテゴリ⑤ 事業から出る廃棄物	17	カテゴリ⑫ 販売した製品の廃棄 573
カテゴリ⑥ 出張	753	カテゴリ⑬ リース資産(下流) 373

(注) 原則として、ナイス株式会社及び国内にある連結子会社を対象としています。一部はナイス株式会社単体のデータとなります。Scope3のうち、カテゴリ④については、算出困難な製品を除いています。カテゴリ⑨の排出量は、カテゴリ④の排出量に合算しています。カテゴリ③・⑧・⑭・⑮は算出対象外となります。

### 主な削減貢献量

国産木材製品の流通による 社会の炭素貯蔵増加量 約 <b>239,000</b> t-CO <sub>2</sub>	太陽光発電システム販売による CO <sub>2</sub> 排出量削減効果 約 <b>5,900</b> t-CO <sub>2</sub>	自社太陽光発電施設による CO <sub>2</sub> 排出量削減効果 約 <b>5,300</b> t-CO <sub>2</sub>	木造住宅の供給・木造非住宅の 建築による炭素貯蔵増加量 約 <b>2,500</b> t-CO <sub>2</sub>
--	---	---	--